

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名：	鯖江市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	生活交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）
地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きくかけ離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R8年度の利用者目標を170,000人で再設定を行った。 事業内容については、新ダイヤでの運行開始から2年半が経過し、おおよそダイヤの定着が図られたことから、今後については利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得を目指す施策を行う。 利便性向上においては、R6.3の北陸新幹線敦賀開業に伴い、ハピラインふくい線に移った鯖江駅や北鯖江駅について、R6.4に新鉄道ダイヤに合わせたつつじバスダイヤの改定をおこなっているが、今後も鉄道ダイヤ改正等が計画されていることから、実際の乗継状況も踏まえた乗継ぎしやすいつつじバスダイヤへと調整を行っていく。また、乗り換え案内やイベント情報など、利用者が求める情報発信をSNS等を中心に発信していくことで、日常生活や観光、ビジネスなど様々なシーンで利用しやすいつつじバスを目指す。 新たな利用者の獲得においては、現在のつつじバス利用者層が通勤通学者と高齢者、障害者等に集中しているため、利用の少ない小学生やその親世代をターゲットにしたイベントを実施する。幅広い世代に利用されるつつじバスになることで、長期的に愛され持続していくつつじバスを目指す。